

政務活動報告書

令和7年11月10日

〔会派名：喜働〕

代表者氏名	川合 滋	記録者氏名	幸松 孝太郎
研修者氏名	幸松 孝太郎		
研 修 日	令和7年10月31日（金）		
研 修 先	東京都国立市（ローカル・マニフェスト推進連盟 国立事務所 オンライン受講）		
目 的	今回の研修では、決算フォローアップセミナー「決算を予算に活かすには」～R6年度決算審議を経て～と題したテーマに、著名な大学教授や市議から専門的な視点の解説と監査の最新事例を交えながらの講演による理解を深めることである。		

研修概要

（1）開催要領

決算フォローアップセミナー

決算を予算に活かすには

～令和6年度決算審議を経て～

複数議会からの
実践報告あり

アーカイブ
動画配信あり

会場＆オンライン

10月31日(金) 13:00～16:30



大正大学教授
江藤俊昭



可児市議会議長
川上文浩



あさる野市議
子籠敏人

（2）3人の講演者のまとめ

今回の研修では、川上文浩議員、江藤俊昭教授、子籠敏人議員の3氏から、議会の政策形成機能、決算審査の実効性、監査の活用方法について、それぞれの実践と理論に基づいた報告がなされた。いずれの講演も、議会を「住民自治の根幹」として機能させ、地域経営の本丸である総合計画や財政運営に議会が主体的に関与していく必要性を強調していた点で共通していた。

1. 講師：大正大学教授 江藤俊昭氏

江藤教授は、議会基本条例を起点とした議会改革の歴史を踏まえつつ、議会が地域経営の中核に立つべき存在であることを理論的に整理した。三重県議会や会津若松市議会、飯田市議会の事例を示しながら、議会が住民の意思を起点に政策を立案し、行政と対案を持って競争する姿勢こそが二元代表制の本質であると指摘した。また、財政健全化条例や監査委員との連携を通じて、議会が財政運営に対しても主体的に関与する必要性を強調し、議会改革の「第2ステージ」として政策サイクルを制度化する方向性を提示した。

① 本市に生かせること



活用領域	具体的施策	実施例・応用案
議会基本条例の再構築	地域経営への関与を明記	総合計画や財政条例との連動規定の追加
政策サイクルの導入	決算審査→政策提言→予算反映の流れ	分科会・自由討議・提言一覧の作成
住民参加の制度化	意見交換会・市民ワークショップ	議会報告会の定期開催と提言への反映
財政健全化の事前統制	条例による財政運営の縛り	「健全な財政に関する条例」の制定検討
監査との連携強化	議選監査委員の役割明確化	議会との協働監査・監査結果の政策反映

② 所感

江藤教授の提言は、議会を「地域経営の本丸」に位置づけるという明快な理念に基づいており、議会改革の第2ステージとしての政策形成機能の強化を促すものである。特に、議会が住民の意思を起点に政策を立案し、行政と対案を持って議論する姿勢は、二元代表制の本質を体現するものであり、本市においても議会の役割を再定義する契機となる。

また、財政健全化に関する制度的提案や監査との連携強化は、単なる財務管理を超えて、自治体の持続可能性と説明責任を高める仕組みとして有効である。今後、議会と執行部、住民、監査機関がそれぞれの役割を果たしながら、協働による地域経営を推進するための制度設計が求められる。

2. 講師：可児市議会議員 川上文浩氏

川上議員は、可児市議会における予算決算委員会の取組を紹介し、決算審査を単なる事後評価にとどめず、次年度予算編成に直結させる仕組みを構築していることを示した。重点事業点検報告書を活用し、分科会で自由討議を行い、全会一致で政策提言を採択するプロセスは、議会の合意形成と市民意見の反映を両立させる実践例である。さらに、提言内容が翌年度予算に反映され、その結果が再び報告されるという循環は、議会の政策形成機能を確実に高めている。

① 予算決算審査サイクルの概要

審査段階	内容	活用資料
予算審査（1～6回）	説明・質疑・討論・採決	重点事業説明シート
決算審査（1～6回）	説明・質疑・討論・採決・提言まとめ	重点事業点検報告書
分科会（常任委員会単位）	提言案検討	地域課題懇談会等の意見反映
本会議	市長へ通知（全会一致）	委員長報告・附帯決議

② 決算審査の流れ（令和6年度）

1. 8月21～23日：補正予算・決算説明（各所管課）
2. 8月27日：質疑通告締切（電子提出）
3. 9月6・9日：質疑・審査・政策提言の洗い出し
4. 9月10～12日：分科会（総務企画・建設市民・教育福祉）
5. 9月17日：討論・採決・政策提言とりまとめ
6. 9月25日：本会議で委員長報告

③決算説明対象事業の選定基準

- 重点事業：「重点事業点検報告書」に掲載された全事業
- その他事業：
 - ・前年度比±20%以上の増減
 - ・不用額が多い
 - ・委員長・財政課・所管課が説明必要と判断

④決算審査実績

年度	説明事業数	説明時間（合計）	質疑数	参加議員数
R4.9	166 事業	7 時間 53 分	89 項目	16 人
R5.3	127 事業	6 時間 16 分	121 項目	15 人
R5.9	156 事業	6 時間 5 分	115 項目	17 人

⑤重点事業例：包括的支援事業（高齢者支援）

- ・地域包括支援センターの再編
- ・認知症支援（カフェ・相談・ガイドブック）
- ・地域福祉懇話会の開催（14 地域）
- ・在宅医療・介護連携の推進
- ・介護用品購入助成事業（利用件数増加）

⑥運用上の留意点

- ・質疑は事前通告制（8/27 締切）
- ・説明対象事業は事前協議で決定
- ・質疑は一問一答形式、関連質疑可
- ・政策提言は全会一致が原則
- ・委員長報告は討論中心に簡略化

⑦本市に生かせること

活用可能性	内容	実施方法の例
決算審査の政策化	決算を予算改善の根拠とする	分科会設置・重点事業報告書の導入
市民参加の強化	地域課題懇談会の意見を政策に反映	ワークショップ形式で意見収集
事業別成果の可視化	成果物・課題・財源を事業単位で整理	決算説明資料の構造改革
提言の予算反映	翌年度予算に提言内容を反映	提言一覧と反映状況の報告書作成

⑧所感

説明資料は、議会が単なる審査機関ではなく、政策形成の主体として機能するための実践的なモデルを提示している。特に、分科会による自由討議と全会一致による提言採択は、議会内の合意形成と市民への説明責任を両立させる仕組みとして秀逸である。

また、重点事業の成果と課題を事業別に整理し、予算反映まで追跡する姿勢は、行政の透明性と改善サイクルの確立に資する。本市においても、決算審査の在り方を再構築し、政策提言型議会への転換を図る契機となり得る。

3. 講師：あきる野市議会 子籠敏人氏

子籠議員は、あきる野市における監査委員としての実務経験をもとに、監査を決算審査に活かす具体的な手法を紹介した。執行率の低い事業に着目し、審議会未開催や謝礼、旅費、新規事業などを精査することで、要綱の見直しや報酬条例の改正といった制度改善につなげている。また、例月現金出納検査において払戻や戻入といった異常な資金の流れに注目し、リスクを発見する実践も示された。さらに、キャンセルポリシーや申請様式の見直しなど、現場の課題を制度に反映させる姿勢は、監査を単なる形式的チェックではなく、改善の出発点とする好例である。

①この監査の特長

特長	内容
決算審査意見書の活用	監査委員の意見（執行率・流用・未済額など）を決算審査の出発点に
執行率の低い事業への着目	審議会未開催・謝礼・旅費・新規事業などを精査し、制度改正へ
実務に基づく改善提案	要綱見直し、予算計上の適正化、条例改正（報酬別表追加）など
現金出納検査の活用	払戻・戻入などの異常な資金流れに着目し、リスクを発見
柔軟な制度対応	キャンセルポリシーや申請様式の見直しによる手数料損失の回避
議選監査委員の積極的役割	議会との連携、視察受け入れ、制度改善への関与を推進

②所感

子籠議員の実践は、監査を単なる形式的チェックではなく、政策改善の起点とする姿勢に貫かれている。特に、執行率の低い事業への着目と制度改正への展開は、予算の適正化と市民への説明責任を両立させる好事例である。

また、議選監査委員としての立場から、議会と監査の協働による自治体運営の質向上を目指す姿勢が印象的であった。今後、監査結果を政策提言に結びつける仕組みづくりや、議会との情報共有体制の強化が求められる。

4. まとめ

3氏の報告を通じて明らかになったのは、議会・決算審査・監査がそれぞれ独立した機能として存在するのではなく、相互に連動しながら地域経営を支えるべき点である。議会は住民の意思を起点に政策を立案し、決算審査はその成果を検証して次年度予算に反映させ、監査は制度改善とリスク発見を通じて財務の健全性を確保する。この一連の流れを制度として整備することが、持続可能で説明責任を果たす自治体経営につながる。

最後に、決算審査を政策提言の起点とする仕組みの導入、議会基本条例の見直しによる政策形成機能の明確化、監査結果を政策改善に結びつける体制の整備、そして市民意見を議会活動に反映させる仕組みづくりが必要である。これらを実現することで、議会・監査・市民参加が連動する「地域経営サイクル」を構築し、透明性と実効性を兼ね備えた自治体運営を進めることができるだろう。

今回の研修は、議会の役割を再定義し、監査や決算審査を政策形成に結びつける視点を改めて確認する貴重な機会となった。本市においても、この学びを制度設計と実務運用の両面に反映させ、住民自治の根幹としての議会をより一層機能させていくことが期待される。

以上